

令和7年度 肝属川学識者懇談会

議 事 概 要

1. 日 時：令和7年9月25日（木）15:00～16:00

2. 場 所：大隅河川国道事務所 3階大会議室

3. 開催方法：対面会議

4. 出席者：（対面）齋田委員長、石塚委員、酒匂委員、山内委員
※久米委員より委任状を受領

5. 議 事

（1）委員長の選定について

齋田委員を委員長として選定・承認する。

（2）懇談会の目的と規約等の確認

懇談会の目的と規約等について了承する。

（3）事業再評価（肝属川総合水系環境整備事業）について

（委員）調査票は10km圏内の全世帯を対象としているのか。

（事務局）調査票は10km圏内の全世帯を対象とし、郵送、またはポスティングをしている。

（委員）Web 回答の導入で若年層の回答が増える可能性があるため、回収数を増加させるために、以降はWeb アンケート調査に移行してはどうか。年齢構成も把握できる形が望ましい。

（事務局）今後の調査で検討する。

（委員）ハード整備だけでなく、ソフト面も重要だと思う。これまで吾平地区で取組んできた結果から高山地区整備にむけてどのような見通しがあるか。

（事務局）始良川では河川愛護会や協議会が中心となりイベントが増加、地域住民の関心・利用意識が高まっている。高山地区でも同様に「川を使う人を育てる」ソフト施策を参考に進めたい。

（委員長）肝属川総合水系環境整備事業について、了承する。

（委員）異議なし。

（4）肝属川水系河川整備計画の点検について

（委員）令和5年頃から水質が大幅に改善されている傾向があるが、三号排水路や接触曝気槽の稼働状況との関連性はどうか。

（事務局）曝気槽の稼働による関連性はあると思われる。

(委員) 75%値を採用しているが、採水タイミングや条件を揃えないと数値がばらつくため、同一条件での継続的な調査が必要。

(委員) 高齢化が進行し、草刈り等の管理が住民主体で困難になってきている。今後はパートタイム人員や外部支援の充実が必要。

(委員) 国土交通省の治水対策への位置づけとしては、流域治水と従来の治水計画が二本柱で進められているかということでよいか。

(事務局) 計画全体の見直しを進めつつ、流域治水 2.0 の取組と並行して河川整備計画の改定を進める。

(委員長) 肝属川水系河川整備計画の点検を了承する。

(委員) 異議なし。

以上